

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104449
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム であい
所在地	松山市余戸南5丁目3番18号
自己評価作成日	平成21年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と利用者の信頼関係が保たれている。年下の職員に対して『わがまま』や『甘え』の部分を出しているのを見ると、それだけ職員に気を許しているのだと嬉しくなります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の総合施設のデイサービスのバス等の設備や介護予防教室等の行事を上手く活用し、規模の大きな施設ならではのサービスを提供している。食事は総合施設の厨房で作られているため、職員が利用者の支援に集中できる。利用者同士や職員と会話している場面も多く見受けられ、とても和やかな雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム であい

(ユニット名) 桜の宿

記入者(管理者)

氏名 長岡 千里

評価完了日 21 年 11 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 組織の一員として、事業所(法人)の理念と共に価値観を共有し理念の実現を目指して、職員一人ひとりが実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 約4年前に職員が自分ならどのようなケアをして欲しいかという利用者の観点で作成した理念を現在も掲げており、職員全員で共有し、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域にある障害者施設と交流を行い催事には招待しあい親交を深めている。又、運営推進会議に地域住民の方に参加して頂いたり、地域の民生委員会に職員が参加させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 地域住民との交流は法人として行っており、一事業所であるホームが単独で交流を深めることは難しい状況にあるが、法人内の他部門が行っている介護予防教室等の行事や運営推進会議をうまく活用し、可能な範囲で地域との交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の際、認知症の方の現状や、支援の方法、対応等の提言をさせて頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域住民の方、社協、介護保険課、包括の方に参加を頂き話し合いの中で様々な意見により改善点を見出し、その後の活動に生かしている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター、民生委員、高齢クラブ会長等の出席があり、それぞれの立場から活発な意見が出されているが、職員が内容を確認する機会がなく、サービスの向上に十分活かしているとまでは言えない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 市担当者と連絡を取り合い、自施設の現状や対応について伝え、意見や助言を頂いている。	
			(外部評価) 生活保護の利用者について生活保護担当課と連絡をとり合って状況報告や相談を密に行うなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設の体制上玄関の施錠は行っているが、それ以外では常に人権を守ることを基本を認識し、安全で安心な暮らしが出来るよう取り組んでいる。又、生命保護の為の拘束も出来る限りの工夫や、抑圧感の無い暮らしを支援している	
			(外部評価) 施設全体のセキュリティーシステムでオートロックがかかるようになっており、ホーム部分だけを解除することはできないが、職員が外出に同行する機会を多くもつなど、ストレスのないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の危険を早期に見つけ、職員の個々にも話し合い、徹底防止に努めている。又、勉強会にて虐待について学ぶ機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援や成年後見制度について学び、利用者がそれらを活用していけるように支援を行っている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 個々のご利用者様・ご家族様の立場に立ち配慮や取り組みを行っている。契約時に利用料金等について十分な説明を行い、家族会や文章等で補足を行ったり話し合いの場を設けたりしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々ご利用者様と話し、ご家族様とは面開時に話を聞く場を設けている。運営推進会議や家族会にて伝える機会を設けご家族様からの意見を前向きに生かしている。 (外部評価) 家族へのアンケートを実施し、内容を職員会で検討している。また、運営推進会議や家族の来訪時にも意見や要望を出してもらいやすい雰囲気づくりを心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は施設長を通して、日々職員からの意見や提案を聞き、管理者は月1回職員会やワーカー会にて話し合いの場を持ち、理解を深めていっている。又、職員の意欲向上、質の向上に努めている。 (外部評価) ホーム内の会議や職員会、管理者連絡会等を通じて職員が意見を出せる仕組みを構築している。管理者は、職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は施設長を通して、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は施設長を通して、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括西地区のエリア内のグループホームの意見交換会や法人内のセクション会に参加し取り組みを行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時から入居前にかけて、どんな日常生活を送りたいのか、何をしたいのかご本人様の声に耳を傾け安心で信頼される関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時から入居前にかけて、ご家族様の話を聴きご本人様との意見の違いも含めて理解をしご家族様との関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員とカンファレンスを行いご利用様が施設になじみ安心して満足できるよう対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 『一緒に暮らしを楽しむ』という理念を掲げ職員一同ご利用様との関係を築き携わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人様とご家族様との関係を踏まえ職員は両者の支援者である事を意識して、ご家族様との連携を密にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族・友人・知人との面会や自宅・家族宅への外出・外泊等の支援をしている。 (外部評価) 同施設のデイサービスを利用している友人が訪ねて来たり、遊びに行ったりしている。家族と相談しながら外泊や外出を勧め、家族や馴染みの人との関係継続を支援している。また、利用者同士も仲良くなれるよう、良好な関係づくりを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に立ちご利用者様全員が関わりを持ち、出来る方が出来ない方へのお手伝いをしたり、支え合って暮らしていける様努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 出来る限り情報やケアの仕方、状況を伝達し支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員全員がご利用者様の思いや意向を理解し対応できる様、話し合いワーカー会等で検討を行っている。	
			(外部評価) 職員は、利用者との会話の中から思いや意向をくみ取り、より良い生活ができるよう努力している。また、困難な場合は以前の生活歴や家族の意向を考慮しながら、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご利用者様との日々の会話の中で個々の生活史を把握し職員間で情報を共有できる様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員全員が1つのチームとして報告・相談しながらご利用者様一人ひとりの把握に努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月1回のモニタリング・カンファレンスやアセスメントを行い、それぞれの意見やアイデアを出し合い見直しを行っている。又、変化に応じての見直しもその都度行っている。	
			(外部評価) 担当職員が各利用者の介護計画の原案を作成し、全職員で全利用者の計画を検討し、共有している。モニタリングも全職員で行っている。日常の気づきをノートに記録し、計画に反映させるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の実践を記録に残すのみではなく職員の次のケアに活かせる様に努力し情報の共有を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々々のニーズに対して職員間で話し合い出来る限り対応できるように支援していく。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員と連携し、消防訓練・ボランティアの受け入れ・地域医療からの往診等取り組んでいる	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医との連携を図り、最善の医療が受けれる ように、又、ご家族様との連携も密にとりながら支援 している。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医の受診は家族に対応してもら うようになっているが、困難な場合は職員が付き添う 等、柔軟に対応している。歯科の往診も利用者から希 望があれば対応できるように協力医との連携も取れて いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常の中で状態把握や異状に早期に気づき看護師や医 師に報告、相談しながら支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際ご本人様はもちろんご家族様と相談し、入院 中・退院時には病院に赴き状態の把握と今後の支援につ いて話し合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 職員・ご家族・かかりつけ医がチームとなって連携を図 りながら支援して行ける様に取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者及び家族には早い段階で説明し、また状況の変 化等に応じて随時話し合っている。重度化及び終末期 に関する研修会も行い、同法人内施設の看護師や協力 医療機関等との連携体制も構築している。家族にとっ て、併設の特別養護老人ホームの存在は大きな安心感 につながっている。	終末期のケアに携わる職員は常に緊張感の中にあり、 より質の高い安定したサービスを提供するためにも、 職員に対する研修のみならず、メンタルケアのシステ ムを構築するよう期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会にて救急法や緊急時の対応について勉強を行い発生時活かせるように努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 施設全体として避難訓練を定期的に行っている。又、運営推進会議を通して地域との協力体制を構築しつつあり両者が協力できるように話し合っている。 (外部評価) 複合施設全体での避難訓練を定期的に行っている。地区の民生委員が防災士でもあり、運営推進会議を通して地域との関わり等についての検討を続けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一人ひとりがプライバシーを確保でき、ご利用者様のプライドを傷つけない対応が出来る様、日常生活において言葉かけ1つに対しても注意しあい話し合っている。 (外部評価) 衣服の乱れ等をあからさまに直すのではなく、人目に触れないところでさりげなく直したり、丁寧な言葉遣いをする等、職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々、ご本人様は何を言いたいのか、何をしてほしいのか、関わりを持ちながら観察し理解できるように努力している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人様のペースに合わせて希望を聞きながら、又、推測し観察しながら、過せるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人様の立場に立って考え、好みや意向を理解して支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 施設の体制上調理は厨房で行っているが、食事の配膳・食事・片付けは職員と一緒にしている。簡単ではあるが手作りおやつの日を決めて、職員と一緒に作っている。 (外部評価) 食事は総合施設の厨房で、利用者が食事しやすいように調理されている。「いただきます」の声かけを当番制にしており、利用者同士や職員との会話も弾み、楽しく会話しながら食事している。可能な利用者は配膳や下膳、台拭き等も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量を毎日チェックし、一人ひとりに応じた対応をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い、一人ひとりの口腔の状態を把握し清潔に努め、必要時歯科受診を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツは夜間のやむなき対応とし排尿チェックにて、個別の対応としている。出来る限り、トイレでの排泄を心がけている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンについて、チェック表を用いて把握している。時間を見て声をかけたり、表情や行動から読み取ってさりげなくトイレ誘導をするなど、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の排便状況を把握し、毎日の運動と便秘がちの人には、個別に便秘になりにくい飲食物の摂取を心がけ、便秘時の対応も個々に行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご利用者様への負担をなくし、気持ちよくゆったり入浴して頂けるよう、1対1の対応で支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて回数を増やしたり、時間を変えるなど、気持ちよく入浴できるよう配慮している。入浴を拒否する利用者もいるが、声かけ等の対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の睡眠状態やリズムを把握し、安心して眠れるように、又、日中のあり方について職員間で話し合い支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬について職員全員が理解できるように努め、服薬の大切さ、誤薬を防ぐ為の対応の仕方、危機感の持ち方等情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者様一人ひとりに合った役割や楽しみが支援できる様に生活歴や力量を考え話し合い行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人様の思いに添って外出できる様にご家族様と連携をとり支援を行っている。又、デイサービスのバスを利用してドライブに出かけている。	
			(外部評価) 併設のデイサービスから外出先に相応しい場所の情報をもらったり、月に2回程度はデイサービス送迎用のバスを借りて遠方に遊びに出かけるなどしている。また、近所のスーパー等に散歩を兼ねて買い物にも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と話し合い希望に応じてご本人様が小額所持し買い物する楽しみを味わっていただいている。又、預り金に対してはご家族様の合意を得て管理方法を取り決めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族様との合意の上、ご本人様が電話したいと訴えられた時はかけられる様に支援し、手紙も毎月書いて頂くよう支援している。ご家族様からの便りが来る方もおり、喜ばれている。携帯電話を所持している方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間に不快が無いように毎日点検・掃除を行い季節の花等を飾ったりし居心地よく過して頂く工夫をしている。	
			(外部評価) 季節や行事ごとに利用者と一緒に飾り付けを行っている。ホーム内には和やかな音楽が流れ、落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや和室で他の人の気配を感じながらも一人になり自分だけの時間を過せる様に工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人様が入居前から使用しているなじみのものを持ち込み落ち着いて過せるように工夫をしている。又、入居前の一人暮らしの居室をそのまま移した様な方もおられる。	
			(外部評価) それぞれの居室の照明器具等のデザインが異なり、さらに利用者個人の家具や仏壇等使い慣れたものを自由に持ち込んで、利用者ごとに個性的な空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの危険防止や安全で混乱なく生活が送れるように検討しシルバーカーや車椅子の使用に配慮している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104449
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム であい
所在地	松山市余戸南5丁目3番18号
自己評価作成日	平成21年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重信川のほとり出合橋のたもとにあり、周囲に田園・住宅が広がっており小鳥のさえずりが聞こえ自然に囲まれている。高齢者総合福祉施設として成り立っている為、ご利用者様が特養などに移動される際には情報の共有が出来るため支援を行う事が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の総合施設のデイサービスのバス等の設備や介護予防教室等の行事を上手く活用し、規模の大きな施設ならではのサービスを提供している。食事は総合施設の厨房で作られているため、職員が利用者の支援に集中できる。利用者同士や職員と会話している場面も多く見受けられ、とても和やかな雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム であい

(ユニット名) 梅の宿

記入者(管理者)
氏名 角田 京子

評価完了日 21 年 11 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) グループホームの理念を共有し日々の中で話し合い再確認し実践につなげている。又、組織の一員として、法人の理念と共に価値観を共有し、理念の実現を目指して、職員一人ひとりが実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 約4年前に職員が自分ならどのようなケアをして欲しいかという利用者の観点で作成した理念を現在も掲げており、職員全員で共有し、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域にある障害者施設と交流を行い催事には招待しあい親交を深めている。又、運営推進会議に地域住民の方に参加して頂いたり、地域の民生委員会に職員が参加させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 地域住民との交流は法人として行っており、一事業所であるホームが単独で交流を深めることは難しい状況にあるが、法人内の他部門が行っている介護予防教室等の行事や運営推進会議をうまく活用し、可能な範囲で地域との交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の際、認知症の方の現状や、支援の方法、対応等の提言をさせて頂いたり、毎月1回介護予防教室を開催し地域の方に知識・情報を提供している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域住民の方、社協、介護保険課、包括の方に参加を頂き話し合いの中で様々な意見により改善点を見出し、その後の活動に生かしている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター、民生委員、高齢クラブ会長等の出席があり、それぞれの立場から活発な意見が出されているが、職員が内容を確認する機会がなく、サービスの向上に十分活かしているとまでは言えない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 市担当者と連絡を取り合い、自施設の現状や対応について伝え、意見や助言を頂いている。	
			(外部評価) 生活保護の利用者について生活保護担当課と連絡をとり合って状況報告や相談を密に行うなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設の体制上玄関の施錠は行っているが、それ以外では常に人権を守ることを認識し、安全で安心な暮らしが出来るよう取り組んでいる。又、生命保護の為の拘束も出来る限りの工夫や、抑圧感の無い暮らしを支援している	
			(外部評価) 施設全体のセキュリティーシステムでオートロックがかかるようになっており、ホーム部分だけを解除することはできないが、職員が外出に同行する機会を多くもつなど、ストレスのないケアに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の危険を早期に見つけ、職員の個々にも話し合い、徹底防止に努めている。又、勉強会にて虐待について学ぶ機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援や成年後見制度について学び、ご利用者様がそれらを活用していけるように支援を行っている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 個々のご利用者様・ご家族様の立場に立ち配慮や取り組みを行っている。契約時に利用料金等について十分な説明を行い、家族会や文章等で補足を行ったり話し合いの場を設けたりしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々ご利用者様と話し、ご家族様とは面会時に話を聞く場を設けている。運営推進会議や家族会にて伝える機会を設け家族からの意見を前向きに生かしている。又、玄関にご意見箱を設置している。	
			(外部評価) 家族へのアンケートを実施し、内容を職員会で検討している。また、運営推進会議や家族の来訪時にも意見や要望を出してもらいやすい雰囲気づくりを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 代表者は施設長を通して、職員からの意見や提案を聞いている。また、管理者は月1回職員会やワーカー会にて話し合いの場を持ち、理解を深め職員の意欲向上、質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) ホーム内の会議や職員会、管理者連絡会等を通じて職員が意見を出せる仕組みを構築している。管理者は、職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は施設長を通して、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 代表者は施設長を通して、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 包括西地区のエリア内のグループホームの意見交換会や法人内のセクション会に参加し取り組みを行っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 相談時から入居前にかけて、どんな日常生活を送りたいのか、何をしたいのか本人様の声に耳を傾け安心して信頼される関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時から入居前にかけて、ご家族様の話を聴き本人様との意見の違いも含めて理解をしご家族様との関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員とカンファレンスを行いご利用者様が施設になじみ安心して満足できるよう対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 『一緒に暮らしを楽しむ』という理念を掲げ、一人ひとりの機能に応じて出来ることを見つけて、職員とご利用者様が一緒に楽しみながら支えあっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様とご家族様との関係を踏まえ職員は両者の支援者である事を意識して、ご家族様との連携を密にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族・友人・知人との面会や自宅・家族宅への外出・外泊等の支援をしている。 (外部評価) 同施設のデイサービスを利用している友人が訪ねて来たり、遊びに行ったりしている。家族と相談しながら外泊や外出を勧め、家族や馴染みの人との関係継続を支援している。また、利用者同士も仲良くなれるよう、良好な関係づくりを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に立ちご利用者様全員が関わりを持ち、出来る方が出来ない方へのお手伝いをしたり、助け合い支え合って暮らしていける様努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 出来る限り情報やケアの仕方、状況を伝達し支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員全員が、ご家族様からの情報も活かしながら、ご利用者様の思いや意向を理解し対応できる様、話し合いワーカー会等で検討を行っている。 (外部評価) 職員は、利用者との会話の中から思いや意向をくみ取り、より良い生活ができるよう努力している。また、困難な場合は以前の生活歴や家族の意向を考慮しながら、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族様からの情報を活かしながら、ご利用者様との日々の会話の中で個々の生活史を把握し職員間で情報を共有できる様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員全員が1つのチームとして朝・夕の申し送りで、報告・相談しながら利用者一人ひとりの把握に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月1回のモニタリング・カンファレンスやアセスメントを行い、それぞれの意見やアイデアを出し合い見直しを行っている。又、変化に応じての見直しもその都度行っている。 (外部評価) 担当職員が各利用者の介護計画の原案を作成し、全職員で全利用者の計画を検討し、共有している。モニタリングも全職員で行っている。日常の気づきをノートに記録し、計画に反映させるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の実践を記録に残すのみではなく職員の次のケアに活かせる様に努力し情報の共有を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々々のニーズに対して職員間で話し合い出来る限り対応できるように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員と連携し、消防訓練・ボランティアの受け入れ・地域医療からの往診等取り組んでいる	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医との連携を図り、最善の医療が受けれる ように、又、ご家族様との連携も密にとりながら支援 している。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医の受診は家族に対応してもら うようになっているが、困難な場合は職員が付き添う 等、柔軟に対応している。歯科の往診も利用者から希 望があれば対応できるように協力医との連携も取れて いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常の中で状態把握や異状に早期に気づき看護師や医 師に報告、相談しながら支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際本人はもちろんご家族様と相談し、入院中・退 院時には病院に赴き状態の把握と今後の支援について 話し合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化対応・ターミナルケアマニュアルに沿った勉強会 を開催し、又、職員・ご家族・かかりつけ医がチームと なって連携を図りながら支援して行ける様に取り組ん でいる。	
			(外部評価) 利用者及び家族には早い段階で説明し、また状況の変 化等に応じて随時話し合っている。重度化及び終末期 に関する研修会も行い、同法人内施設の看護師や協力 医療機関等との連携体制も構築している。家族にとっ て、併設の特別養護老人ホームの存在は大きな安心感 につながっている。	終末期のケアに携わる職員は常に緊張感の中にあり、 より質の高い安定したサービスを提供するためにも、 職員に対する研修のみならず、メンタルケアのシステ ムを構築するよう期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会にて救急法や緊急時の対応について勉強を行い発生時活かせるように努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 施設全体として避難訓練を定期的に行っている。又、運営推進会議を通して地域との協力体制を構築しつつあり両者が協力できるように話し合っている。 (外部評価) 複合施設全体での避難訓練を定期的に行っている。地区の民生委員が防災士でもあり、運営推進会議を通して地域との関わり等についての検討を続けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一人ひとりがプライバシーを確保でき、ご利用者様のプライドを傷つけない対応が出来る様、日常生活において言葉かけ1つに対しても注意しあい話し合っている。 (外部評価) 衣服の乱れ等をあからさまに直すのではなく、人目に触れないところでさりげなく直したり、丁寧な言葉遣いをする等、職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々、ご本人様は何を言いたいのか、何をしてほしいのか、関わりを持ちながら観察し理解できるように努力している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人様のペースに合わせて希望を聞きながら、又、推測し観察しながら、過せるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人様の立場に立って考え、好みや意向を理解して支援している。又、月に2回美容院が、月に1回理容院が来るので利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 施設の体制上調理は厨房で行っているが、食事の配膳・食事・片付けは職員と一緒にしている。簡単ではあるが手作りおやつの日を決めて、職員と一緒に作っている。 (外部評価) 食事は総合施設の厨房で、利用者が食事しやすいように調理されている。「いただきます」の声かけを当番制にしており、利用者同士や職員との会話も弾み、楽しく会話しながら食事している。可能な利用者は配膳や下膳、台拭き等も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量を毎日チェックし、一人ひとりに応じた対応をしている。栄養のバランスやカロリーは施設の栄養士が管理している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い、一人ひとりの口腔の状態を把握し清潔に努めている。又、週1回訪問歯科あり、必要時歯科受診を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツは夜間のやむなき対応とし排尿チェックにて、個別の対応としている。出来る限り、トイレでの排泄を心がけている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンについて、チェック表を用いて把握している。時間を見て声をかけたり、表情や行動から読み取ってさりげなくトイレ誘導をするなど、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の排便状況を把握し、毎日の運動と便秘がちの人には、個別に便秘になりにくい飲食物の摂取を心がけ、便秘時の対応も個々に行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご利用者様への負担をなくし、気持ちよくゆったり入浴して頂けるよう、1対1の対応で支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて回数を増やしたり、時間を変えるなど、気持ちよく入浴できるよう配慮している。入浴を拒否する利用者もいるが、声かけ等の対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の睡眠状態やリズムを把握し、安心して眠れるように、又、日中のあり方について職員間で話し合い支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬について職員全員が理解できるように努め、服薬の大切さ、誤薬を防ぐ為の対応の仕方、危機感の持ち方等情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者様一人ひとりに合った役割や楽しみが支援できる様に生活歴や力量を考え話し合い支援行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人様の思いに添って外出できる様にご家族様と連携をとり支援を行っている。又、デイサービスのバスを利用してユニット全員でドライブにも出かけている。	
			(外部評価) 併設のデイサービスから外出先に相応しい場所の情報をもったり、月に2回程度はデイサービス送迎用のバスを借りて遠方に遊びに出かけるなどしている。また、近所のスーパー等に散歩を兼ねて買い物にも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と話し合い希望に応じてご本人様が小額所持し、買い物する楽しみを味わっていただいている。又、預り金に対してはご家族様の合意を得て管理方法を取り決めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族様との合意の上、ご本人様が電話したいと訴えられた時はかけられる様に支援し、手紙も毎月書いて頂くよう支援している。ご家族様からの便りが来る方もおり、喜ばれている。携帯電話を所持している方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間に不快が無いように毎日点検・掃除を行い季節の花等を飾ったりし居心地よく過して頂く工夫をしている。又、中庭があり共有スペースとして活用している。	
			(外部評価) 季節や行事ごとに利用者と一緒に飾り付けを行っている。ホーム内には和やかな音楽が流れ、落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや和室で他の人の気配を感じながらも一人になり自分だけの時間を過せる様に工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人様が入居前から使用しているなじみのものを持ち込み落ち着いて過せるように工夫をしている。又、入居前の一人暮らしの居室をそのまま移した様な方もおられる。	
			(外部評価) それぞれの居室の照明器具等のデザインが異なり、さらに利用者個人の家具や仏壇等使い慣れたものを自由に持ち込んで、利用者ごとに個性的な空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの危険防止や安全で混乱なく生活を送れるように検討し、居室には表札を貼り、リビングはシルバーカーや車椅子の使用に配慮している。	